













# 15º Festival do Japão 2012



## フェスティバル・ド・ジャポンの歴史

フェスティバル・ド・ジャポン(日本祭)は、1998年ブラジル日本移民90周年を記念して、日本の郷土芸能・郷土食をブラジル国民および日系人に伝えるために始められた。

イベントは、日本で長い間受け継がれてきた郷土芸能や食文化を伝えるとともに、ブラジルの皆さんにも紹介したいと願いを込めてサンパウロ市のセントラルパークともいえるイビラブエラ公園で開催され、その後、場所が移り現在ではサンパウロ州政府のイベント会場であるセントロ・デ・エスピジソーンス・イミグランテ会場で開催されている。このフェスティバルは、日本との交流はもとより他の国々にも交流の輪を広げようというものである。

フェスティバルは今年15年目を迎え、大きくその輪を広げ、入場者はもちろんのこと国際的になり、ブラジル国、サンパウロ州政府、各都市にも知られるようになった。

フェスティバル・ド・ジャポンは、初め『日本郷土食・郷土芸能祭り』としてイビラブエラ公園内で4年間行われ、第5回より『フェスティバル・ド・ジャポン』と改称され、サンパウロ州議会駐車場に場所を移して開催。

第8回から場所および駐車場の問題などから、面積も広いセントロ・デ・エスピジソーンス・イミグランテ会場に移して開催され、ブラジル日本移民100周年の2008年は、3日間の開催期間中の入場者が19万人、09、10、11年と場所の規約があるものの、20万近くの入場者を数えている。今年はテーマを『共存する進歩と環境』と名付け、7月13、14、15日に開催する。

ブラジル日本都道府県人会連合会が主催するこのイベントは、サンパウロの風物行事として定着してきており、将来は日本の各地、各都道府県からの「アンテナショップ」みたいな形での参加も模索し、それが実現されると一層盛り上がり、交流も進むものと確信している。このイベントは利益を追うものではなく、日本の伝統文化の紹介と普及の場と考えている。



三重県人会青年部の皆さん



沖縄県人会婦人部の皆さん



千葉県人会の郷土食ブース



東京都友会の皆さん

## フェスティバル ド・ジャポン

### Sustentabilidade e o Futuro da Humanidade







